

# ソーシャルメディアを基点とした GIS 技術情報交換コミュニティの形成

Organizing a Community on GIS Related Technologies Utilizing Social Media

鳥取大学 大学院工学研究科 伊藤 昌毅

masaki@ike.tottori-u.ac.jp

本発表では、Twitter を中心とするソーシャルメディアが可能にした、地理情報システム (GIS) 技術を中心とする技術情報交換コミュニティの形成について報告する。著者の周辺では、大学や研究期間の研究者や学生、企業における地理情報システム開発者、公的機関における GIS 関連業務従事者、アマチュア開発者などが集まり、Twitter を利用して日々情報交換や技術動向の議論を続けている。加えて、2010 年 6 月には著者を中心として技術勉強会を開くなど、今日に至るまで継続的で活発なコミュニティが持続している。本発表では、こうしたコミュニティ形成を概観し、研究活動にソーシャルメディアがもたらす可能性について議論する。

## Social Media によるコミュニティ形成

- ATND, Ustream の活用によって、オンラインのネットワークとリアル勉強会の緊密な連携が実現

### ATND によるイベント支援

株式会社リクルートが運営する、イベント運営支援サイト。2008 年 9 月に公開。イベントの日時や場所、詳細等を記した Web ページを容易に作成し、参加者の募集や管理が出来る。参加希望者は、実名を用いなくても Twitter, Google, mixi, はてななどインターネットで広く使われている ID でログインし、登録が可能。技術勉強会などを中心に数人の飲み会から数百人規模のイベントの開催にまで利用されている。



考古学  
地質学  
GIS  
ランドスケープ  
地図学

## 勉強会

顔を合わせて議論するだけでなく、Twitter の ID とアイコンを付けた名札を用意し、関連するつぶやきをリアルタイムにプロジェクトで表示するなど、Ustream からの参加者を含めたオンラインとの連続性を実現している。発表スライドを Slideshare で共有することで後日の参照も可能になり、Blog による参加レポートもいくつも発表された。



## 地位や肩書きではなく、ID やアイコンによる交流



Slideshare  
Blog

## Twitter

## 地図が媒介する、分野、組織を越えた専門家のコミュニティ形成

### Twitter によるネットワーク

Twitter は、140 文字以内でつぶやくだけでなく、興味のあるつぶやきをする専門家をフォローするなど情報収集にも活用出来る。その上で、誰かのつぶやきに勝手に返信したり (mention)、特定の話題を示すハッシュタグをつぶやきに加えることで、似た興味を持つ者同士の相互フォローが促進される。その結果、フォローしている人のつぶやきが時系列に表示されるタイムラインが、自分の興味ある話題が飛び交う場になってゆく。



ユビキタスコンピューティング  
サブカルチャー  
地理学  
地形学  
ジオメディア  
防災

## 共通の興味で人を結び付けるソーシャルメディア



### Together による場作り

Twitter に投稿された「つぶやき」を収集、並び替え、装飾することで編集し公開するサービス。2009 年 9 月公開。時間が経つことで探しにくくなったり、フォローしていないため読んでいないつぶやきを含めて収集し、タイトルを付けて公開することで、Twitter 上での話題を明示化し、議論の把握を可能にする。Together にまとめることで、Twitter を実りのある議論の「場」とすることが可能になる。

## Social Media はどのようなコミュニティを可能にするか？

- 技術情報：情報交換を加速することでアイデアを広め、相互により高いレベルの技術を手に入れることが可能。
- 趣味の情報：周囲に同じ趣味を持つ者がいなくても Social Media を通して同好の士を発見、交流可能。
- 学術情報：完全オープンな Twitter の場が学術的な議論やアイデアの醸成の場にふさわしいか。